

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	第二こじか園		
○保護者評価実施期間	2026年1月6日		2026年1月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2026年1月20日		2026年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・1日6時間、週5日間の療育を受けることができる。 令和6年度の報酬改定では、5時間未満が「療育」とされ、その後は預かりニース(見守り)となっている。 当園の療育は切れ目なく6時間の生活が構成されている。 遊ぶ・食べる・眠る(午睡)という基本的な生活文化を学ぶ支援を受けることができる。	生活・発達・障害の観点をもち、療育に取り組んでいる。	午後の活動時間を活用し、移行支援も視野に入れた保育所との交流を定期的に行っていききたい。
2	・園児4人に一人の指導者ではなく、3人に1人の指導者を配置している。 国の制度では、園児4人あたりに1人の指導者の対応であるが、当園では1グループ10人、3人から4人の指導者による支援体制を維持している。	「じっくり、ゆっくり、たっぷり、ていねいに」を支援の原則とし、個々の園児の特性による心の揺れ(・・・ダ、ケレドモ・・・ダ)や主体性(ヤレルカナ・・・ヤツテミヨウ)の育成に努めている。	1つのグループの指導者の構成には、保育士資格のある者を1名以上と児童指導員資格のある者、指導員で構成している。 全職員は、資質向上に向けて研修のための冊子として『みなのがい』(全国障害者問題研究会発行)を自費で購入し、輪読会を開催している。
3	・前期、後期に発達相談員(心理士)による園内での発達検査を行っている。 制度にはないが、専門家による発達検査を実施し、発達の課題を明確にして、個別支援計画を作成している。	発達検査には保護者が立ち会い検査後、保護者の相談を受けている。 保育者と発達相談員との懇談も行い、検査結果に現れないこどもの意欲等にも関心を向けた協議を行っている。	日々の支援方法の共有のためのケース会議(心理士・保育士・児童指導員・指導員が参加)を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障害のないこどもと活動する機会がない。	交流相手先の園児・職員の障害観が課題の要因。	近接の保育所の年長グループの交流を今年度から始めた。
2	職員の配置数や専門性は適切であるかわからない。	職員の感染症の罹患による休暇やこどもの看護休暇などが重なる日があった。	・有給休暇取得者に対応する補充者の雇用。 ・職員の専門性への理解のために、研修等の取組を保護者に開示する。
3	活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや外部に対して発信されているかよくわからない。	ホームページが法人全体のものであり、事業所としては充実していないという課題がある。	今年度から連絡体制の一部についてSNSの活用を開始した。 事業所独自のHPなどの充実が必要。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		第二こじか園		公表日		2026年 3月 24日		利用児童数		30名		回収数		30	
		チェック項目				ご意見		ご意見を踏まえた対応							
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない										
環 境 ・ 体 制 整 備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	30	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども達の人数に応じて適切な広さだと思う。</li> <li>・指導室は1グループが10人くらいなのでちょうどいい。</li> <li>・園庭が広く道具も多い。</li> <li>・プレイルームは狭めですが園庭はちょうどいい。</li> <li>・こどもが動きやすいスペースが確保されている。</li> </ul>	活動により他の公共施設を借りる、歩く動線と自転車の動線を整理するなど工夫します。							
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17	11	2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年少、年中は補助の先生が多いのに、年長は少ない気がする。</li> <li>・今年は先生が少なかったのか、先生方が忙しそうで心配でした。</li> <li>・人員は不足していると思います。</li> <li>・その子その子に合わせて考えてくれていて。</li> <li>・年少は5人の指導者がいないとさんぼに行かないなど徹底されている。</li> </ul>	国基準4：1を上回り、園児3人に指導者1人の体制を維持しています。活動により調整しました。							
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	24	5	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造化されているが、保育園と変わらない程度だと思う。</li> <li>・見て分かるように、こども一人ひとりにマークがある。</li> <li>・新しい園ではないので所々段差があり、バリアフリーではないと思う。</li> </ul>	モノの定位活動を重視し、柵やカゴ等を活用し、自分の持ち物と他人のモノとの区別やモノの置き場所を丁寧に決めています。							
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	28	1	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物の場所がきちんと決められておりスッキリしている。</li> <li>・心地よく楽しく過ごせる環境です。</li> <li>・こども達も楽しく活動している。</li> </ul>	感染症の防止のため、こまめな消毒・掃除を徹底します。							
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	25	5	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生のこどもへの声かけなど、勉強になることが多いです。</li> <li>・こどものことを理解し、共感し合えます。</li> <li>・こどもの人権や主体性を意識していると思う。それ故に問題行動に対しても見守りつつ待つ姿勢の傾向で、問題解決に向けて積極的に介入しないように感じる。</li> </ul>	問題行動はケガや事故につながらなければ、すぐに介入するのではなく必要に応じた関わりに努めています。							
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	28	1	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語コミュニケーションで“サイン等の活用”と記載があるが、絵カード、マカトンサイン、手話等をつかっているのは見たことがない。</li> <li>・絵カードは普段の生活から切り離れるため、積極的に利用しないといわれていたため残念に思います。</li> </ul>	分かりやすい言葉かけや具体物の提示を行い、こどもに合わせた支援に努めます。							
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	28	1	1	0		発達相談を行い、個別の支援内容を年2回見直し、計画について説明しています。よりよいものに実施していきます。							
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26	1	0	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の中にアセスメントの記載が少ない。</li> <li>・支援の根拠、子の状態からどのようにアセスメントしたか共有してほしいです。</li> </ul>	「じっくり、ゆっくり、たっぷり、ていねい」とは実際の支援場面での「支援の在り方」を表現したことばとしてご理解ください。							
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	28	1	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画更新の時に、達成や未達成など口頭で説明がある。</li> <li>・しっかり見てくれている。</li> <li>・先生方も沢山チャレンジしていただいて支援が行われていると感じます。</li> </ul>	一層計画に沿った支援に努めます。							
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24	1	0	5		活動内容について一層の工夫に努めます。							

	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	17	3	3	7	・年長のみ保育園との交流がある。	隣接の保育園との交流を5歳児で行っています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30	0	0	0	・説明をうけた。	運営規程等について、見学時から丁寧な説明に努めています。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	29	1	0	0	・説明してくれた。	年2回個人懇談を通じて説明をしています。 今後も丁寧な説明に努めます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	28	0	0	2	・ペアトレを実施してほしい。 ・学習会などで、こどもへの接し方など説明がある。	発達相談、個人面談、年10回の保護者学習会や交流会を今後も企画していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	28	1	0	1	・親子保育の時や連絡帳に記載して日々の出来事は教えてもらえます。 ・連絡ノートなどで報告や相談をしている。 ・新版K式発達検査の結果を開示してくれる。	できるだけ時間を確保し、ていねいな説明を心がけていきます。
	16	定期的、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28	1	0	1	・困っていることを相談してアドバイス等をいただきました。 ・相談すればいつも答えてくれます。	各年2回の発達相談、個人懇談、グループ懇談を定例化しています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	30	0	0	0	・寄り添い、支援してくれていると感じます。 ・担当以外の先生もこどもの事を知っていて、優しく声かけをしてくれたり、支援してくれます。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	25	4	0	1	・保護者の学習会などでたくさんの保護者の方と知り合うことができ、情報交換ができた。 ・支援されている。 ・定期的にある。学習会も勉強になる。 ・親子保育、保護者会があり、行事係の準備など保護者同士で話し合う機会も多い。 ・きょうだい同士の交流はありません。	保護者役員会に園長が参加する等、交流を支援しています。
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27	1	0	2	・対応してもらっている。 ・相談すると担当間で共有して対応してくれます。	保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、迅速に対応していきます。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	26	2	0	2	・親も交えた療育をしている。 ・配慮されている。 ・先生がお忙しいので、いかに親から話しかけるか大それたと感じます。 ・ICTが進むと嬉しいです。	連絡ノート、送迎時や電話での連絡を含め、細かな連絡を怠らないように努めています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	23	3	1	3	・園だよりで発信されている。 ・HPで自己評価を見つけれないと意見させてもらって、すぐ常時表示されるようになって良かったです。	活動概要や行事予定は毎月園だよりに記載しています。 自己評価結果は年1回、HP上で行っています。 HPの見やすい表記に改善します。
保 護 者 へ の 説 明 等								

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27	2	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報は守られている。</li> <li>・これでいいと思っている</li> <li>・されていると思う。</li> </ul>	写真等の活用は、その都度、保護者に許可を得ています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	27	2	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯訓練は重要だと思う</li> <li>・子どもと一緒に訓練している</li> </ul>	避難マニュアルなどを示し、ていねいな説明に努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	26	3	0	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時用リュックなど、行われている。</li> <li>・日常的に2階からの非常口である滑り台を使用している。</li> </ul>	月1回、年12回を計画、実施しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25	1	0	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題はあると思いますが、特に不安な事はない。</li> </ul>	安全計画等の一層の周知に努めます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	29	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・些細なことでも、すぐに電話をくれる。</li> <li>・ケガやトラブルなど、必ず連絡があります。</li> </ul>	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	29	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心している。</li> <li>・毎日楽しく行っています。</li> </ul>	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	30	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても楽しんでいる。</li> <li>・外遊びや活動が多く、いつも楽しみにしている。</li> </ul>	
	29	事業所の支援に満足していますか。	29	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足している。できることが増えました。</li> <li>・先生方が日々熱心に子どもを見てくれていると感じます。</li> <li>・ありがたいと思っています。</li> </ul>	一層丁寧な支援に努めます。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	第二こじか園		公表日		2026年 3月 24日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	16	5	廊下に絵本の閲覧スペース等確保し、工夫している。	相談室等を利用して、活動の場所を一層工夫していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	16	5	法定の基準値の園児4名に保育者1人の割合を上回り、園児3名に1人で常に保育者を配置している。適切な配置を一層工夫する。	さんぼ、食事介助等で個人対応をしなければならない園児が増えている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	16	5	個人の持ち物の定位置を確保し、構造化している。バリアフリーにはなっていない。	保育所の跡地で設備等は古い。常に清潔・安全に保ち、一層工夫していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	21	0	園庭を含め、毎日の清掃を徹底している。掃きそうじ、拭き掃除、花を生けるなどの美化に気をつけている。	感染予防のために、空気除菌装置を各室に配置した。指導室の扉を開閉時に手を挟まないよう取り替えた。洗面台に給湯した。乾式トイレに改修した。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	19	2	相談室など適宜利用している。	相談室が使えない時もあり工夫していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	19	1	月に1回の職務会議や職員会議を行い、課題の迅速な解決に向け整理と共有を行っている。	職員の参画方法を工夫します。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20	1	保護者評価を職員で共有し、業務改善の基礎にしている。	保護者会、懇談会等で保護者から運営等について意見を聞いている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17	4	具体的な形での業務改善提案を公募している。	業務が忙しく、相互理解を深めるための時間のゆとりがなくなっている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	21		第三者評価は実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	21	0	月に1回研修日を設けている。	発達検査を踏まえ、発達課題の検討会を行った。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	21	0	HP上で公開している。こじかの保育を小冊子化して配布している。	

12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	21	0	年2回の発達相談に則った「個別支援計画」を作成している。 グループでの保護者懇談会、個人懇談会を実施している。	新版K式発達検査を実施。「発達検査結果」を開示し、面談にて丁寧な説明を行っている。
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	21	0	グループ担当職員が中心となり共通理解を行った上で、児童発達支援管理責任者が作成している。	
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	21	0		
15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	21	0	標準化されたアセスメントのツールとして発達相談員（臨床心理師）による「新版K式発達検査」を実施、活用している。	検査をもとに、保育士と発達相談員が協議し、子どもの適応状況を確認している。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	21	0		
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	21	0	保育部会議を月例化し、目標等を共有化した上で、立案している。	定期的にグループ担当者での話し合いをもち、子どもの状況や保育の共通理解をしている。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	20	1	年間計画に則り、通年を通じて計画している。	季節、天候に合わせて保育内容をバランスよく取り入れるようにしている。
19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	21	0	同年齢のグループで着替え、生活、散歩等を行い、リズムや遊び等は異年齢の集団をつくっている。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	20	1	保育案をもとに毎朝行っている。	非常勤の勤務者もあり、一層丁寧に行っていく。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	21	0	毎日行っており、翌朝に職員朝礼で報告をしている。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	21	0	毎日の記録をとり、週間で整理、検討している。	
23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	21	0	年2回見直しをしている。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	セルフプランが主であり、障害児相談支援事業所のサービスを受けている保護者が少ない。	訪問介護事業の利用など、相談支援事業所との連携が必要な場面が出てきている。 要請があれば積極的に参加していく。

25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	21	0	保健センター、主治医、保育所等、教育関係機関等との連携体制を行っている。	就学に際し、支援学校や小学校の校長が在園児の様子を見学に来ることが恒常化している。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20	1	転園を希望する保護者とともに当該の保育所等を訪問し、情報共有を図っている。	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20	0	就学に向けて、支援学校の訪問日を設けている。 就学前年度には、居住地校区の小学校、特別支援学校を保護者、園児とともに訪問している。	居住地校区の小学校長等の訪問を受けている。 就学先が決定した後、当該の特別支援学校からも園児の様子を見学に来る。
28	(28～30は、センターのみ回答)	20	0	障害者保育運動連絡協議会に所属し、他のセンター等とともに職員研修を行っている。	講演会への参加、実践検討会等の研修に参加している。
	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	19	1	認定心理師を雇用し、発達検査や発達相談について職員が同席している。 年に2回、障害児保育運動連絡会の研修に参加している	
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	19	1	和歌山市自立支援協議会こども部会に参加し、情報の共有と提言をしている。 障害児保育運動連絡会事務局会議に出席している。	管理者等が出席している。 内容を職員へ周知するよう努めます。
31	(31は、事業所のみ回答)				
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	21	0	年長児は保育所との交流を行っている。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	21	0	連絡帳で、こどもの状況を伝え合っている。 個人懇談を年2回行っている	グループ面談、個人面談を計画的に行っている。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	21	0	発達及び発達保障について、年間10回の「保護者学習会」を実施している。	年長児保護者が経験談を語り、参考になっている。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	20	1	事前の見学時、入園前説明会、入園後の説明会の3回にわたって説明し、理解を得ている。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	20	1	個人懇談を実施し、確認している。	一層丁寧な意向確認に努めます。

37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	21	0	「個別支援計画」を作成し、同意を得て、その写しを保護者に渡している。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	21	0	毎日の連絡ノートのやりとりで保護者の悩み等に気づき、必要に応じて電話連絡や直接話す機会をつくっている。	年2回の個人懇談とグループ懇談、交流会を行っている。
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	21	0	保護者会の活動がしやすいように、配布物や回収物の協力をしている。 役員会の場所を提供し、定例会には園長が出席している。	
40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	20	1	毎日の連絡ノートや送迎時に、気軽に申し入れがしやすい雰囲気作りをしている。	
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	19	2	園だよりを月1回発行し、情報を発信している。	
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	21	0	園のすべての資料の持ち出しを禁じている。	広報等に必要際には、再度承認を得て行っている。 デジタルデータの管理に注意している。
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	21	0	動作と一緒に具体物を提示したり、名前の代わりに動物シール等を使ったりして、自分のものと意識できるようにしている。	こどもの様子に変化があればすぐに連絡を取っている。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	18	地域の方を招待する行事等は実施していない。 地域の自治会に入り、回覧版の受け渡しや清掃活動に参加している。	開園以来、親の会が公園や溝の掃除をしてきた。 地域の方から推薦をいただき、市長から表彰を受けた。 また、職員は地域の清掃活動に参加している。 地域での清掃活動も地域に開かれた事業運営の一つとらえている。
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	20	1	非常災害と併せて、それぞれ年1度実施している。	親子保育時にも行う計画を立てる予定である。
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	21	0	こども避難所として市と契約している。	毎月、避難訓練を実施している。
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	21	0	入園前に健康診断書の提出を求めている。	必ず個別に確認している。
48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	21	0	医師の指示書を必ず提出するようお願いしている。	毎日の給食で職員同士の声かけを行っている

常 時 等 の 対 応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	21	0	定められた研修を実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	21	0	実施している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	21	0	文書報告を義務づけている。	軽微なことも申し送り事項として記載し、毎朝、口頭確認を行っている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	21	0	月1回、職員会議の協議題として取り上げ、時宜に応じた研修を実施している。	職員の人権感覚の醸成のため、様々な機会を捉え、管理者が指導を行っている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	20	1	送迎バス乗車時にシートベルトを外し立ち歩きがある場合、車椅子用の転落防止保護ベルトの使用を行う旨、保護者に説明している。	身体拘束の事例はない。